

群 教 セ	G02 - 02
	平 27. 257 集
	社会 - 小

人々の工夫や努力の意味について考え、 表現できる児童の育成

——社会的事象を比較・関連付けるための
「くらべるシート」を活用して——

特別研修員 東瀬 貴美

I 研究テーマ設定の理由

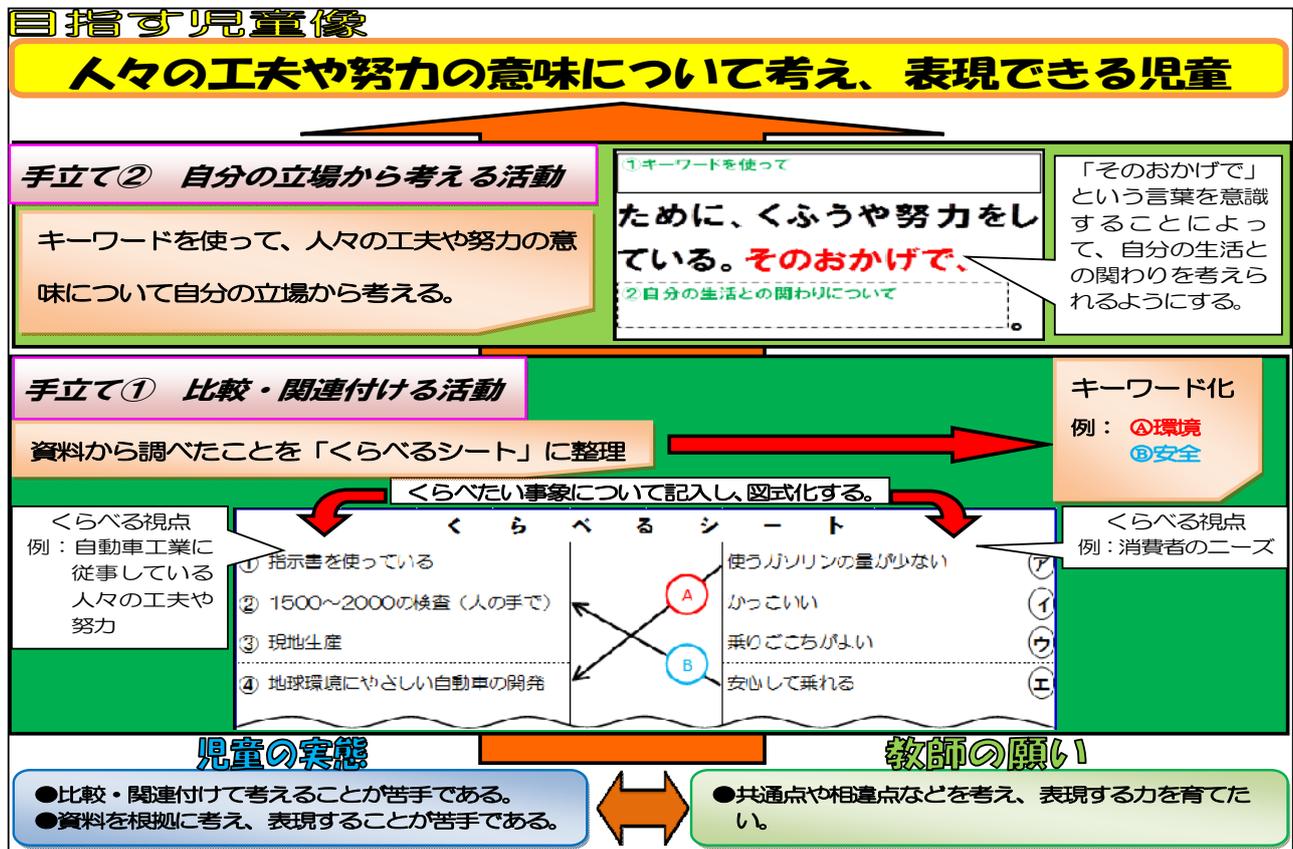
小学校学習指導要領解説社会編では、第5学年の能力に関する目標として「社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と示されている。また、「はばたく群馬の指導プラン」では、伸ばしたい資質能力として、第5学年に「人々の工夫や努力の意味を考え、国土の環境や産業を理解すること」を挙げている。このことから、社会的事象の意味や人々の工夫や努力の意味について考え、表現することを通して、我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようになることが求められている。

本学級の児童は、社会的事象について調べることは得意だが、調べた事実を基に人々の工夫や努力の意味を考え、表現することは苦手である。結果として、資料から読み取った事実だけをまとめ、表現する学習になっている。

以上のことから、複数の社会的事象を比較・関連付け、共通点や相違点に気付くことができる「くらべるシート」を活用し、人々の工夫や努力と自分の生活との関わりを考えて表現することで、人々の工夫や努力の意味について考え、表現できる児童を育成することができるであろうと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 実践1「あたたかい土地・寒い土地」

実践1では、農業に従事している人々の工夫や努力の意味を考えるために次のような手立てを試みた。

- ①比較・関連付けるための「くらべるシート」を活用して、資料から読み取った事象を整理する活動を取り入れる。
- ②「くらべるシート」に整理された内容を基に、農業に従事している人々の工夫や努力の意味について考え、表現する活動を取り入れる。

実践1では資料から読み取ったことを「くらべるシート」に記述することで、沖縄県と北海道十勝地方の農業に従事している人々の工夫や努力を捉えることができた。しかし、「くらべるシート」に自由に記述できるようにしたために、比較・関連付けが難しく、あまり共通点や相違点に気付くことができなかった。そのため、工夫や努力の意味を考える上で、十分な手立てとはならず、児童の考えに広がりが見られなかった。結果として、「くらべるシート」の形式や活用の仕方を改善していく必要があると考えた。

(2) 実践2「自動車をつくる工業」

実践2では、自動車工業に従事している人々の工夫や努力の意味を考えることができるように、新たに以下の改善点を付け加えた。

- ①「くらべるシート」の形式を改善し、自動車工業に従事している人々の工夫や努力と消費者のニーズのつながりを矢印で表し、キーワード化する活動を取り入れる。
- ②キーワードを用いて自動車工業に従事している人々の工夫や努力と自分の生活との関わりを考え、表現する活動を取り入れる。

実践2では、実践1で自由記述形式だった「くらべるシート」に罫線を引き、視覚的に整理しやすいような形式にした。また、つながりを記述する形式から矢印で表す形式に改善した。このことによって、自動車工業に従事している人々の工夫や努力と消費者のニーズが可視化されたので、児童が比較・関連付けやすくなり、全ての児童がつながりを矢印で表すことができた。その後、人々の工夫や努力の意味を考える手掛かりとするために、つながりをキーワードで表した。キーワードで表すことによって、つながりの根拠を明確にすることができた。さらに、キーワードを定型文に当てはめて考える際に、「そのおかげで」という言葉を活用してまとめることによって、自動車工業に従事している人々の工夫や努力と自分の生活との関わりを考えることができるようにした。その結果、自動車工業に従事している人々の工夫や努力の意味について考え、表現することができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 複数の社会的事象を比較・関連付け、共通点や相違点に気付くことができる「くらべるシート」を活用し、人々の工夫や努力と自分の生活との関わりを考えたことで、人々の工夫や努力の意味について考え、表現することができた。
- 考えたことをキーワード化し定型文に当てはめたことによって、人々の工夫や努力の意味について自分の言葉で表現することができた。

2 課題

- 学習内容に応じて「くらべるシート」の形式や活用方法を検討していく必要がある。
- くらべる観点を明確化していくことによって、「くらべるシート」をより活用しやすくなると考える。
- 比較・関連付けをしやすくするために、学習内容に応じて「くらべるシート」の項目を精選していく必要がある。
- 「くらべるシート」に表したつながりをキーワード化する際、話し合いの時間を十分確保することで児童の考えが深まると考える。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 「あたたかい土地・寒い土地」 (第5学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、学習指導要領第5学年の内容の(1)イの「国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」に基づいて設定した。沖縄県と北海道十勝地方の気候条件、家やくらしの特色を基にして、単元を貫く課題として「あたたかい土地や寒い土地では、気候やくらしを産業に生かすために、どのようにくふうをしているのだろうか」を設定した。この学習課題を追究していくために、自然条件と農業やその他の産業に従事している人々や古くからの文化を伝えている人々の工夫や努力の意味について、資料から調べたことを比較・関連付けて考えた。本時は、全5時間計画の2時間目にあたり、沖縄県と北海道十勝地方の農業に従事している人々の工夫や努力の意味を考えることをねらいとしている。

3 授業の実際

導入で沖縄県と北海道十勝地方の雨温図を比べ、二つの地域の気候条件のちがいを振り返った。その後、農作業の写真の数を提示して興味を持たせることで、児童と本時のめあて「あたたかい土地や寒い土地で農業をしている人々は、どのようにくふうをしているのだろうか」を設定した。次に沖縄県と北海道十勝地方の農業について調べた。

手立て①

比較・関連付けるための「くらべるシート」を活用して、資料から読み取った事象を整理する活動を取り入れる。

まず、沖縄県と北海道十勝地方の農業について、個人で調べる時間を設定した。その際、二つの地域の共通点と相違点を考えながら、「くらべるシート」に整理するよう伝えた。資料読み取りの注意点として、「作っている作物」「作っている作物の特徴」「農作業の様子」「農地」という視点を参考にするよう助言した。その結果、児童は沖縄県と北海道十勝地方の農業について調べたことを、比較・関連付けながら「くらべるシート」に整理していくことができた(図1)。

次に、「くらべるシート」に整理したことをグループで交流する場を設定した。グループで話し合い、新たに気付いたことは、自分の「くらべるシート」に赤色で記入して良いことを伝えた。交流する場を設けたことで、自分では気付かなかったことを記入することができた(図2)。

全体で交流する場面では、児童が作成した「くらべるシート」を画面カメラで投影し、そこに書き加えていく形で共有した。全体で交流する様子を見ると、共通点を見

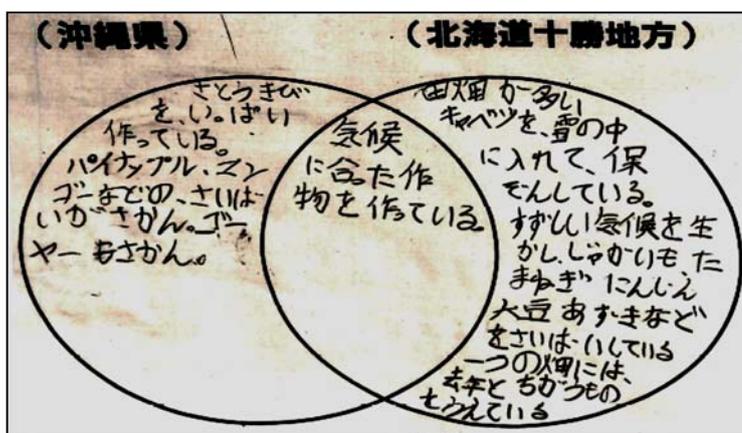


図1 個人で作成した「くらべるシート」



図2 グループ交流後の「くらべるシート」

付け発表できた児童は数名であった(表1)。全体で確認した共通点としては、「気候に合った作物を作っている」「機械を使っている」「気候を生かした作物を作っている」であった。

手立て②

「くらべるシート」に整理された内容を基に、農業に従事している人々の工夫や努力の意味について考え、表現する活動を取り入れる。

T 真ん中(共通点)に入りそうなことはありませんか。
 S1 気候に合った作物を作っている。
 S2 機械を使って収穫している。
 T なんで機械を使って収穫しているのですか。
 S2 広い畑を持っているから。
 T 他にありますか。
 S3 気候を生かした作物を作っている。
 T では、ここで農業の工夫について考えてみましょう。
 「〇〇のために、△△という工夫をしている」と書いてください。

表1 全体交流の様子

次に、「くらべるシート」に整理したことを基に、沖縄県や北海道十勝地方で農業に従事している人々の工夫や努力の意味について考えた。以下は児童の記述例である(図3)。

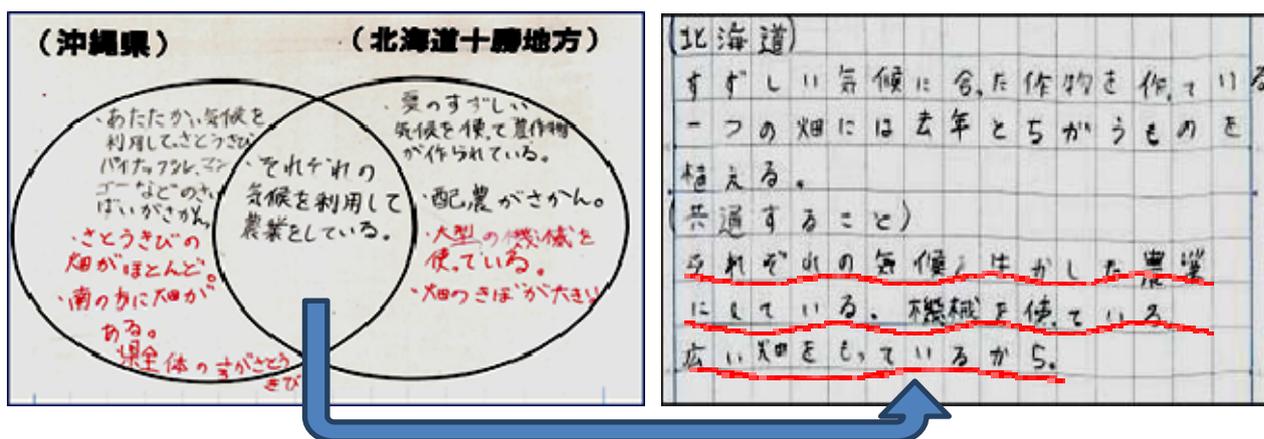


図3 児童が「くらべるシート」を基に書いた考え

授業1で使った「くらべるシート」は、左側に沖縄県、右側に北海道十勝地方、中央に二つの地域に共通していることを書き込んだ。そのため、農業に従事している人々の工夫や努力の意味を考える場面でも、「沖縄県」「北海道十勝地方」「共通すること」の3項目について考えた。児童は、それぞれの言葉で工夫や努力の意味を表現することに取り組むことができた。しかし、その内容を見ると「くらべるシート」に書かれている内容からの発展性がなく、事実のみを書くだけになってしまった。事実を確認したあとに、工夫や努力の意味を考え、表現するための手立てが不足していたことが原因だと考えられる。

4 考察

(1)手立て①について

- 全ての児童が、共通点や相違点を考えながら整理できたことから、「くらべるシート」を活用することは、資料を比較・関連付ける上で、有効であったと言える。
- 共通点を見付けることができた児童はいたが、その理由まで考えられた児童はほとんどいなかったため、「くらべるシート」の形式やその後の活用方法を工夫していく必要がある。

(2)手立て②について

- 農業に従事している人々の工夫や努力の意味について、自分の考えを持つことができた児童が25人いた。これは全体の約60%に当たる。「くらべるシート」に整理された内容を基に表現する活動を取り入れたことは、有効であったと言える。
- 児童の記述を見ると、「くらべるシート」に書かれた共通点、児童が自分のノートに書いたこと、黒板に板書したことがどれも同じ内容になってしまい、児童の考えが農業に従事している工夫や努力の意味にまで至らなかった。そのため、考える際の視点を与える必要がある。
- 人々の工夫や努力の意味まで考えることができるよう「くらべるシート」の形式を改善していく必要がある。

実践2

1 単元名 「自動車をつくる工業」(第5学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、学習指導要領第5学年の内容の(3)ア「様々な工業生産が国民生活を支えていること。」とウ「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」に基づいて設定した。まず、自分の生活と自動車の関わりを考えたり、日本の乗用車生産台数の変化や主な生産地について調べたりして、これからの学習に向けての意欲を高めた。そして、提示した資料から日本の自動車の輸出台数や輸出先を調べ、単元を貫く課題として「なぜ、日本の自動車は世界で人気があるのだろうか」を設定した。自動車の生産工程や自動車の部品をつくる過程、その輸送について調べ、自動車工業に従事している人々の工夫や努力について読み取ったり、組み立て工場と関連工場のつながりについて考えたりした。また、自動車工業に従事している人々が、人と環境にやさしく優れた自動車を生産するために様々な工夫や努力をしていることを調べた。さらに、「くらべるシート」を活用し既習事項と消費者のニーズ(保護者へのインタビュー)を比較・関連付け、自動車工業に従事している人々が消費者のニーズに応じた工夫や努力をしていることにより、人々は快適な生活を送っていることを考えた。最後に、日本の自動車づくりのよさをキャッチコピーで表した。

3 授業の実際

「組み立てライン」「キャリアカー」「自動車の骨組み」の写真を提示し、あらかじめ整理しておいた「くらべるシート」を確認し、自動車工業に従事している人々の工夫や努力を想起させた(図4)。

次に、事前にインタビューしてきた消費者のニーズについて全体で共有しながら、「くらべるシート」の右側に記入した。



図4 「くらべるシート」の掲示

手立て①

「くらべるシート」の形式を改善し、自動車工業に従事している人々の工夫や努力と消費者のニーズのつながりを矢印で表し、キーワード化する活動を取り入れる。

本時では、「自動車工業に従事している人々の工夫や努力」と「消費者のニーズ」(図5)を比較・関連付ける対象とした。これらを比較・関連付けることができるように、つながりを矢印で記入した。矢印を記入する際には、消費者のニーズをかなえるために工夫や努力をしているという思考の流れになるように、消費者のニーズから工夫や努力につながる矢印を引くよう助言した。

全体で発表する場面では、それぞれの児童が考えたつながりを共有することができるように、書画カメラで児童の「くらべるシート」と同じ物を黒板に提示し、そこに矢印を記入した。また、発表を聞いて納得したものは赤色で記入して良いことを伝えた。

次に、「くらべるシート」に記入したつながりをキーワードで表した。キーワードで表す際には、理由を明確にするように助言した。「くらべるシート」につながりが可視化されているので、児童は「安全」「安い」「安心」「未来」「環境」「便利」「丈夫」などのキーワードを考えて、理由とともにノートへ記入することができた。

工夫や努力	くらべるシ	消費者のニーズ
① 板金加工の新しい部品をつくる		かっこいい
② 指示書(指示シロ)を使う		安全性
③ 1500-2000の軽自動車(人1台)		サソリ/サソリ
④ 板金加工の新しい部品をつくる		よこれかめたたな車
⑤ 工場→海→高速道路		車の顔
⑥ 現地生産		乗りごえ
⑦ 地球環境にやさしい自動車		安い
⑧ リサイクル可能な自動車の開発		雪どきやリサイクル車
⑨ 安全に乗るための自動車の開発		安心して乗れる
⑩ 国土の不自国産品が輸送の便		大きい

図5 矢印を記入した「くらべるシート」

以下は児童が考えたキーワードとその理由の例である（図6）。

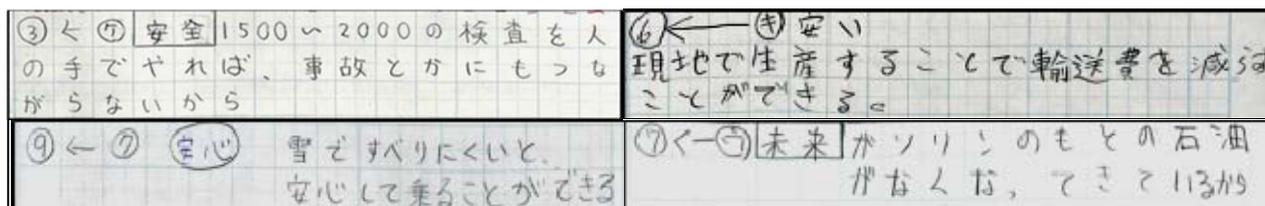


図6 キーワードとその理由

それぞれが考えたキーワードを共有することができるように、グループで交流する場を設定した。交流する際には、理由も一緒に伝えるように助言した。

手立て②
 キーワードを用いて自動車工業に従事している人々の工夫や努力と自分の生活との関わりを考えて表現する活動を取り入れる。

自動車工業に従事している人々の工夫や努力の意味を考えることができるように、なぜキーワードで表されたことを意識しながら工夫や努力をしているのかを考えるよう促した。その際に、自動車工業に従事している人々の工夫や努力と自分の生活との関わりを考えることができるように定型文を示した（図7）。以下は児童が考えたまとめである（図8）。

①キーワードを使って
ために、くふうや努力をしている。そのおかげで、
 ②自分の生活との関わりについて。

図7 定型文

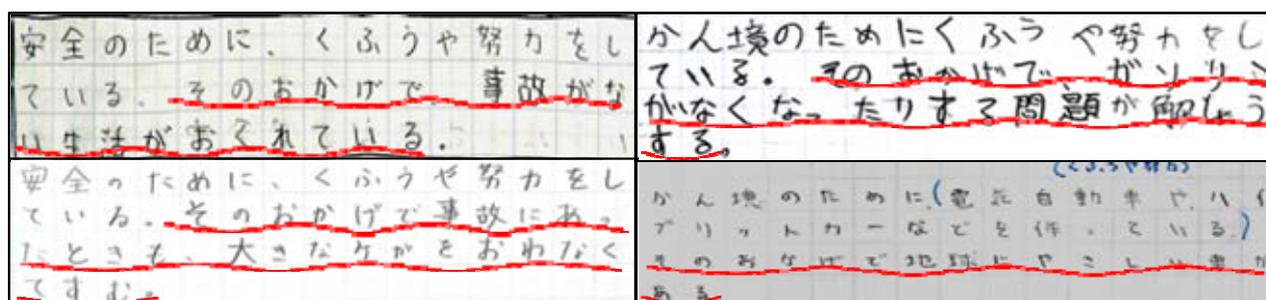


図8 児童が考えた自動車工業に従事している人々の工夫や努力の意味

4 考察

(1) 手立て①について

- 全ての児童が自動車工業に従事している人々の工夫や努力と消費者のニーズを矢印でつなぐことができたため、「くらべるシート」を活用することは、資料から読み取ったことを比較・関連付けるのに有効であったと言える。
- 「くらべるシート」は、つながりを矢印で表すので思考を整理しやすく、つながりを明確にすることができた。
- つながりを全体で共有する場面で、理由を説明しながら発表したり、グループ活動で共有したりするだけでなく、検討・修正する活動を行うためにも、「くらべるシート」に書かれていた項目を精選して少なくし、焦点化していく必要がある。

(2) 手立て②について

- 自動車工業に従事している人々の工夫や努力と自分の生活との関わりを考える際に、「くらべるシート」を基に考えたキーワードを利用したことで、自動車工業に従事している人々の工夫や努力の意味を考えることができた。
- 定型文を活用したことで、多くの児童が自動車工業に従事している人々の工夫や努力の意味を考え、自分の言葉で表すことができた。また、児童の言葉を使って本時のまとめをすることができた。
- 自分の言葉で表すために定型文を活用したが、自分で考えることのできる児童には自分の言葉で表現させるなどすることで、さらに多様な考えにつなげることができると考える。